

教育重点	具体的な取組	担当分掌	今年度の達成規準	中間評価		最終評価	
I 人間力の向上	①学校行事の精選と充実	教務課 進路課 生徒課 管理厚生課 学年団 専門科	生徒の関心を高め、モチベーションを引き出すために、重点的に取り組む行事を絞り込んでいる。また、各々の行事に携わる生徒一人一人が、充実感をもって取り組むことができるように、役割分担や仕事内容を明確化できている。	A	A	A	A
	②部活動の充実・活性化	教務課 専門科	活動状況やコンクール等の結果がホームページで迅速に発信できている。また、運動部のみならず、文化系及び科学技術系の部活動の活性化が進んでいる。	A		A	
	③自治活動の充実	生徒課 管理厚生課 図書課 学年団 専門科	生徒が生徒会や各種委員会で主導的な役割を果たし、生徒一人ひとりが満足いく学校行事(体育祭・文化祭)が実施できている。	B		B	
	④基本的生活習慣の確立	教務課 進路課 生徒課 教科 管理厚生課 学年団 専門科	社会人になる準備としてTPOに応じた態度、挨拶やマナーが身に付いており、欠席や遅刻数が減少している。また、防災やコロナ対策など安全や健康についての意識が向上している。	A		A	
	⑤豊かな人間性の育成	生徒課 教育相談室 学年団 専門科	HRや部活動などの集団生活において、他者を尊重することができる。また、問題の早期発見や連携した対応によって、いじめにつながる芽を摘むことができている。	B		B	
	⑥リーダーの育成	生徒課 学年団 専門科	HRや委員会活動、生徒会活動、部活動等を通じて、集団をまとめ、周囲と協調しながらリーダーシップを発揮できる生徒が育成できている。	B		B	
II 学力の充実	①学習場面に応じたICT機器の有効な活用を実践	教務課 図書課 学年団 専門科 教科	chromebookの導入に伴い、授業での積極的な活用と個々に応じた指導の研究が進んでいる。	A	A	A	A
	②基礎・基本を定着させる授業を実践	教務課 学年団 専門科 教科	基礎力診断テスト等の「高校生のための学びの基礎診断」の蓄積データに基づいた学習計画を生徒自身が立て、朝学習を活用した事前指導によって、学習習慣が身に付いている。	B		B	
	③興味を持てる・わかる授業を実践	教務課 図書課 学年団 専門科 教科	ICT機器等を効果的に使い、わかりやすく伝えることができる。授業研究や研修、相互参観等を積極的に行い、自らの指導の改善に生かしている。	A		A	
	④SDGsやPBLの視点での学びを実践	教務課 図書課 学年団 専門科 教科	SDGsの項目と学習内容やのものづくりとの関連を意識させることができている。また、自ら問いを立て、課題を見つけてそれを解決する手段を考えさせることができている。	A		A	
	⑤各種大会・コンテスト等への積極的な参加・応募を実践	専門科	各専門科の特色を生かした指導体制が確立し、生徒は積極的に各種大会やコンテストに参加している。	B		B	
III キャリア教育	①高度な資格取得への挑戦を通じた自己研鑽	資格検定室 学年団	受検者に参考書を斡旋したり、ガイダンス資料を更新したりすることで、職業教育技術顕彰とジュニアマイスター顕彰(ゴールド)認定者数が増加している。	A	A	A	A
	②授業を通じた勤労観の育成	専門科	実習を通じてものづくりの基礎基本を習得し、安全に対する認識を身に付けるとともに、コミュニケーション能力の向上が見られる。	B		B	
	③進路(就職・大学進学)に応じた指導の充実	進路課 学年団 専門科 教科	進路課と各教科や専門科が連携し、就職・進学ともに生徒の希望に応じた進路指導が充実している。	A		A	
	④企業・学校研究の充実	進路課 学年団 専門科	企業訪問や進学説明会から情報の収集に努め、勤労観を育みながら校内説明会を実施し、卒業後の進路保障も見据えた情報提供ができている。	A		A	
	⑤情報提供の充実	進路課	2・3年生で進路希望調査を実施することで動向を早めに把握し、必要とされる情報提供の充実を図ることができている。	B		B	
IV 地域連携	①地域や社会と連携した学びを実践	教務課 管理厚生課 専門科 学年団	地域連携を通じて実践的な学習を行うことができている。また、地域の観光資源を生かす取り組みや、企業・大学・地域の学校等との積極的な連携ができている。	A	B	A	B
	②HP・ツイッター等での情報発信の充実	教務課 進路課 教育相談室 専門科 資格検定室	学校HPページの更新や資格検定室NEWSの充実を図り、広報活動や進路情報提供の推進が図られている。また、ブログの更新を積極的に行い、保護者等のフォローの割合が増加している。	A		A	
	③作品展、学校説明会等の充実	教務課 管理厚生課 専門科 学年団	地域とのイベントやワークショップで本校のものづくりの魅力を積極的に発信している。また、学校説明会や入試説明会の充実を図ることで、志願者倍率が1倍を超える。	B		B	
	④社会貢献活動の充実	管理厚生課 学年団 専門科	委員会主催の社会貢献活動を実施するとともに、行事後の清掃活動が徹底されている。	B		B	
	⑤防災教育の充実	管理厚生課	各種防災研修会からの情報を共有しながら、生徒に対して防災や災害時における対処についての意識を高める指導ができている。	B		B	
V ものづくり	①最先端のデジタル化対応装置を活用した学びを実践	専門科	先進的な機器を活用することで、より深い学びが実現している。	A	A	A	A
	②「課題研究」等の魅力づくりを実践	専門科 図書課 各教科	基礎基本の充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を目指した課題研究や実習等が増えている。	A		A	
	③外部講師の積極的な活用を実践	資格検定室 専門科	ものづくりマイスター派遣事業等を活用し、講習会を実施することができている。	B		B	
	④安全教育を実践	専門科 教科 管理厚生課	5Sの周知と指導によって、生徒の安全に対する意識が向上し、事故のない安全な授業を行うことができている。	A		B	
VI 校内組織の活性化と人材育成	①相互扶助を実践	専門科 課・教科 学年団	自らの担当分野だけでなく、課・科内の業務内容を理解し習得することで相互扶助が進み、業務の平準化と効率化が推進されている。	B	B	B	B
	②ICT機器等の有効活用による業務効率化を実践	専門科 課・教科 学年団	プロジェクトチームを中心として研究が進み、ICT機器の効果的な活用による業務の効率化が進んでいる。	A		A	
	③OJTによる人材育成を実践	専門科 課・教科 学年団	ベテラン教員が実習の示範や業務の引き継ぎを確実に行うことで、若手教職員の技術の向上や業務の継承が進んでいる。	B		B	
	④コンプライアンスに基づいた業務を実践	専門科 課・教科 学年団	教員間のコミュニケーションを密にし、情報共有を図ることで、同僚性を高め、協働的な職場が醸成されている。	B		B	

【プロジェクト】

- ・「選ばれる学校になるために～工業高校の魅力づくり～」プロジェクト～入学者選抜志願者数増に向けて～
- ・「Chromebook等のICT活用に関する研究」プロジェクト ～校務・授業等での効果的な活用方法を研究～